

子どもの心に寄り添い 「きめ細やかな」 支援を

「生きる力の向上」
支援



うつくしまふくしま未来支援センター 特任教授

本 多 環

HONDA Tamaki

[専門分野] 教育支援実践論 少人数支援実践論（「困り感」を抱えている子どもや保護者への支援）

【プロフィール】宮城教育大学卒業。大阪府内の私立中高一貫校に勤務後、福島県の教員になる。長期派遣研修で福島大学大学院修了。退職後、福島大学附属小学校で少人数支援室「ほっとルーム」を設置。平成24年よりうつくしまふくしま未来支援センターで子ども支援担当。

震災後、福島の子どもたちは、避難や転校を強いられ、学校・地域・家庭の急激な環境の変化に、嫌な思いや苦い思いをしながらも、どうして良いのかわからないという「困り感」を絡みあわせました。避難しなかった子どもたちも、大人の精神的不安や放射線による活動制限を受け、ストレスを増大させていきました。そのような子どもたちが自分らしく主体的に生きることができるよう、これまで学生スタッフとともに、ふるさとに思いを寄せる同窓会事業や教育相談、子どもたちの学習と遊びの支援などを行ってきました。

震災から5年経ち感じるのは、子どもたちが抱える課題が多様化、深刻化しているということです。それぞれの状況を見取り、どのような課題を抱えているかを見

極め、子どもたちの「生きる力」を高めることができるような適切な支援が必要だと感じます。そのためには、学校・地域・家庭の連携と、それぞれの役割に応じた教育力の向上が不可欠と考え、様々な教育力向上プログラムを実施しています。また今後は、これまでの支援が効果的であったかどうかを検証し、実践と研究を融合させる取り組みも必要です。

教育における復旧・復興は、「困り感」を抱えた子どもたちの生活を平常に戻すことだけでなく、震災の影響によって落ちた「生きる力」を埋め直すことだと考えています。私たちはこれからも子どもたちの心に寄り添いながら、一人ひとりが課題を解決できるまで、きめ細やかな支援を行っていきたいと思います。



研究概要

小・中・高等学校教諭としての学級経営や、附属小学校での少人数支援室担当としての支援実践を通して、「困り感」を抱える子どもや保護者への支援方法を実践から学んできました。うつくしまふくしま未来支援センターではこども支援担当として、避難を強いられた子どもたちだけでなく福島県全域の子どもたちの「生きる力の低下」を課題としてとらえ、学校教育力・地域教育力・家庭教育力の向上を目指した課題解決的支援を継続的・専門的・個別的に行っています。



同窓会事業「故郷に想いを寄せながら」

こんなこと
できます!

子どもたちの「生きる力の向上」を目指した支援を行います

想定するパートナー

各自治体および学校教育現場 NPO 諸団体

具体的な連携、事業化のイメージ

相談室設置 「親子関係づくりプログラム」実施

これまでの取組事例

相談室「ほっとルーム」を設置したり同窓会事業「故郷に想いを寄せながら」を実施したりする等、子どもや保護者が抱える「困り感」に寄り添った支援を行ってきました。

関連情報

「困り感」に寄り添うきめ細やかな支援(2) 2010.1

二次的援助サービスの実践的研究 2012.3

東日本大震災で被災した子どもたちへの教育的支援の在り方 2015.3

学生スタッフが活躍!

仮設住宅に開設した「ほっとルーム」では、主に子どもたちの学習支援を行っています。子どもたちにとって、学校とも家庭とも違う、「居場所」になればと思っています。

